

<input checked="" type="radio"/> 一般	<input type="radio"/> 特定
-------------------------------------	--------------------------

(いずれかを○で囲んで下さい)

2025 年 8 月 20 日

認定 NPO 法人 しみん基金・こうべ

理事長 戎 正晴 殿

団体所在地 〒651-0095  
神戸市中央区〇〇町〇丁目〇—〇  
〇〇〇マンション〇〇〇号室

名 称 特定非営利活動法人  
〇〇地域サポートセンター

代表者氏名 〇〇 〇〇

## 2025 年度 助成金支給申請書

別紙書類の通り事業を実施したいので、貴基金の規則により助成金の支給を希望致します。

## 記

1. 事業名 「 暮らしのサポート」のためのコーディネーター研修 」

2. 事業費総額 ￥ 300,000. —

3. 助成金申請額 ￥ 200,000. —

## 団 体 概 要 書

ふりがな	とくていひえいりかつどうほうじん〇〇ちいきさぽーとせんたー			法人格 (○で囲む)
貴団体名	特定非営利活動法人 〇〇地域サポートセンター			あり ・ なし
連絡先住所	〒651-0095 神戸市中央区〇〇町〇丁目〇—〇 〇〇〇マンション〇〇〇号室			
電話番号	078-〇〇〇-〇〇〇〇	F A X 番号	078-〇〇〇-〇〇〇〇	
メールアドレス	mail@ example.ne.jp	URL	https://www. example.ne.jp/index	
ふりがな	〇〇〇〇 〇〇〇〇			
貴団体代表者 役職・氏名	理事長 〇〇 〇〇			連絡先電話番号 078-〇〇〇-〇〇〇〇
ふりがな	〇〇〇〇 〇〇〇〇			
事務担当者 役職・氏名	事務局長 〇〇 〇〇			連絡先電話番号 090-〇〇〇〇-〇〇〇〇
貴団体の 理念・目的	「人を活かす、物を活かす」をテーマに、 ① 安心して老いることができるまち ② 生き生きとした人があふれるまち ③ 物を大切にするまち を目指しています。			
貴団体の 事業内容	1. ふれあい交流事業 2. 「くらしのサポート」事業 3. 上記に関連する講演会・研修会事業			
貴団体の沿革 活動実績	設立年月日	2010 年 9 月 1 日	法人化年月日	2013 年 4 月 1 日
	2010 年 9 月 前身組織「〇〇〇〇」として発足 2013 年 4 月 「〇〇地域サポートセンター」と名称を変更し法人格を取得。 2013 年 4 月から 〇〇研修会の開催 2015 年 4 月から「くらしのサポート」事業開始			
※過去3年間で助成 を受けられた実績も 記入下さい。	2015 年 4 月 〇〇財団から「くらしのサポート」事業に対し助成金を受ける。			
貴団体の強み	地域活動に長年従事してきた理事やスタッフにより立ち上げた団体のため、地域に広い人脈を持ち、地域に密着した活動を行っている。			
会員	種類	正会員	人数	20 名
		利用会員		180 名
スタッフ	5 名 (内有給 1 名)			
おたがいさま基金 にどのような協力が できますか	1. 古着チャリティ 2. Tポイントキフ 3. 募金箱の設置 4. カイトリでキフ 5. その他 ( )			
財政 状況		前々年度決算総額	前年度決算総額	今年度予算総額
	収 入	3,209,000	3,540,000	3,600,000
	支 出	3,198,000	3,475,000	3,600,000
	正味財産	11,000	76,000	76,000

※記入スペースが不足する場合は適宜別紙を添付して下さい。

## 事業計画書

事業名	「くらしのサポート」事業のためのコーディネーター研修	
申請事業の主な分野	A (しおり P5 か HP 掲載の注意事項②から選び、あてはまる記号を 1 つご記入下さい。)	
① 社会的課題の内容とその背景	高齢社会の進行で、地域の中で孤立している介護を必要としている高齢者は増加の一途であり、介護保険によるサービスのみでは地域の介護課題を解決することが困難であることも明らかになってきている。サポートを受けながらも最後まで自分の街で暮らすため、当会の行う介護保険対象外の依頼や病院での活動など地域で支えあうための「くらしのサポート」も重要性を増している。	
② 貴団体の組織内課題	この事業が円滑に行われるためには利用者のニーズを把握し、他機関との連携やサポーターとのマッチングを行うなどコーディネーターの存在は欠かせないが、その絶対数は不足しており育成が必要である。また既にコーディネートを行っているスタッフたちも問題を一人で抱え込むなど、孤立しがちである。	
③ ①②に対して、どのような解決策で 3~5 年後にどのような状態を作りたいですか	社会課題に対して さまざまな機関が連携し、多職種協働と地域住民参加が実現することで、最後まで住み慣れた地域で生活を継続していけるまちづくりをめざす。	
	組織内課題に対して 新たなコーディネーターを養成することで、人手不足を解消し、また既に活動しているコーディネーターはその力量がアップし、他機関との連携を充実させている。	
④ ③実現のために必要な、本申請事業における直接的成果は何ですか	今回の研修で「くらしサポート」事業コーディネーターが新たに 5 人程度育成される。既存のコーディネーターもブラッシュアップされ、その経験を積み重ねていくことで、将来的には地域包括ケアの一翼を担う人材となり、「人を活かす、物を活かす」地域づくりの推進者として中心的な役割を果たせることを目指す。	
⑤ 今年度基本方針と本申請との関係性 (A, B どちらか、もしくは両方にご記入ください。)	重動 A 視の担次 するい代 る手の手 育成市民 を活	コーディネート能力を持つ人材を育成することで、「くらしサポート」事業が地域包括ケアの一翼を担う事業となり、当会の重点事業として継続していくことができる。
	の連 B 携域 の観で 点他 を団 重体 視組 す織 と	コーディネーターが抱え込みがちな問題を、地域の〇〇協会、〇〇センターなどと連携することで、地域の問題として解決していくことができ、一人一人の問題にチームで関わっていけるネットワーク構築を目指す。それぞれの機関の担当者間の顔が見えるゆるやかなネットワークとして継続していく。

どちらか一方でも  
結構です。

記入例

	項目／内容		目標の設定	
<p>⑥ 事業の内容</p>	<p>① コーディネーター養成講座 (座学 2 回) 講師：〇〇〇〇 (〇〇コーディネーター支援センター) (先進事例の訪問ヒアリング調査 1 回) 活動の流れ、書式の形式、書類整理の方法、 コーディネーター研修の内容などを実地で学ぶ。 訪問予定団体：A、B</p> <p>② コーディネーターブラッシュアップ講座 (座学 5 回) 講師：〇〇〇〇 (〇〇コーディネーター支援センター) (他機関の訪問ヒアリング調査 2 回) 日々の課題等の共有、地域にある他機関（あんしん すこやかセンター・医療施設・介護事業所・地域商 店街等）との連携構築</p>		<p>全 3 回開催・定員 30 名う ち 5 名が実践者となる</p> <p>前 7 回開催・10 名全員参加</p>	
<p>⑦ 事業の対象と受 益者の延べ人数</p>	<p>事業の対象：養成講座　くらしサポート活動に興味のある方 30 名 〇〇地域サポートセンター所属 現コーディネーター10 名 受益者：〇〇地域の高齢者 500 人</p>			
<p>⑧ 事業の スケジュール</p>	<p>月日</p>	<p>項目</p>	<p>実施場所</p>	<p>実施担当者</p>
	<p>1 月上旬</p>	<p>・コーディネーター養成講座（3 回）</p>	<p>〇〇地域交流センター 会議室</p>	<p>〇〇</p>
	<p>1 月下旬</p>	<p>・コーディネーターの基本を学 ぶ</p>		<p>〇〇</p>
	<p>2 月上旬</p>	<p>・先進事例訪問ヒアリング調査 (2 ヶ所)</p>	<p>先進事例団体活動 拠点 (A、B)</p>	<p>〇〇</p>
	<p>2 月下旬</p>	<p>・コーディネーター研修会(4 回) コーディネーターの実務を学 ぶ</p>	<p>〇〇地域交流センター 会議室</p>	<p>〇〇</p>
	<p>3 月</p>	<p>・他機関ヒアリング調査 ・コーディネーター研修会(3 回) 自分たちの課題と解決策の検 討</p>	<p>他機関事務所等 〇〇地域交流センター 会議室</p>	<p>〇〇</p>

※記入スペースが不足する場合は適宜別紙を添付して下さい。

記入例

[団体名：〇〇地域サポートセンター]  
(書式4)

事業収支予算書

〈収入の部〉

科目（調達元）	金額（単位：円）	調達方法
助成金申請額（A）	200,000	しみん基金・K0BE (A) = (C)、(A) ≤ (B) × 75%
会費収入	20,000	(正会員個人会費¥3,000 × 20人 + 団体会費¥5,000 × 4団体) × 0.25 (四半期の事業のため)
事業収入	5,000	受講料¥500 × 10人
他機関助成金	65,000	〇〇区助成
自己資金	10,000	〇〇理事長より
合計（B）	300,000	事業費総額 (B) = (E)

〈支出の部〉

科目（使途）		金額（単位：円）	積算根拠
助成金での使途科目	諸謝金	200,000	研修会講師：¥20,000×10回（講師交通費込）
	小計（C）	200,000	(C) = (A)、(C) ≤ (E) × 75%
助成金以外での使途科目	旅費交通費	24,000	訪問ヒアリング調査先団体への交通費：平均¥3,000×2人×4回
	諸謝金	40,000	訪問ヒアリング調査先団体：¥10,000×4団体
	会議費	20,000	研修会場使用料（〇〇地域センター）：¥2,000×10回
	印刷製本費	8,000	テキスト印刷費（80ページ/冊×¥10×10人分）
	事務用品費	8,000	用紙、ファイル等文具類購入
	小計（D）	100,000	
合計（E）	300,000	事業費総額（E）=（B）、（C）+（D）=（E）	

※金額欄はすべて、千円未満の端数を切り捨ててご記入下さい。

※助成金での使途科目のうちに、10万円以上の物品の購入や修繕工事等に充てる場合は、業者等による見積書やカタログ等を添付して下さい。（コピー可）

※記入スペースが不足する場合は適宜別紙を添付して下さい。